

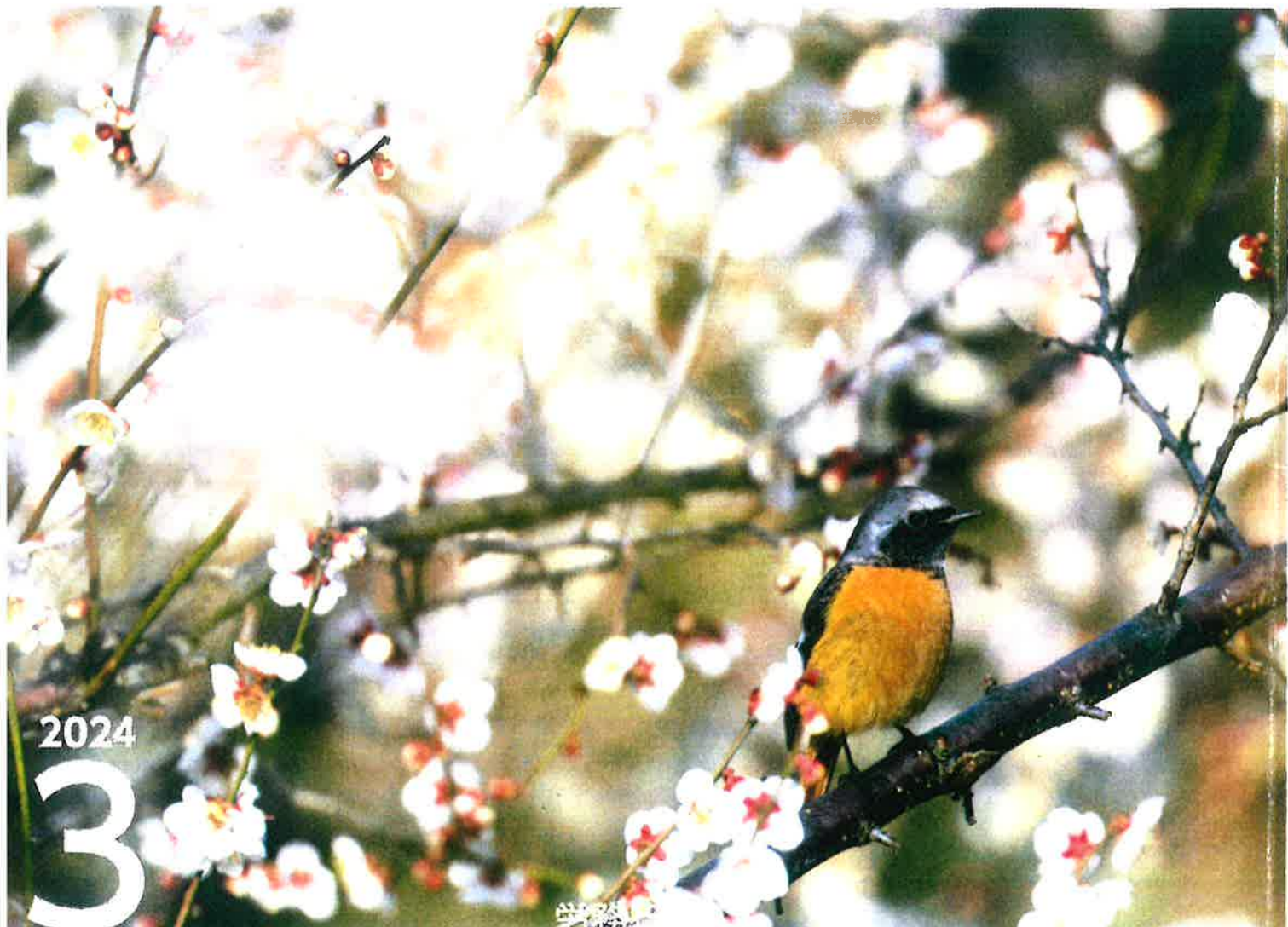
月刊

シルバー 人材センター

高 齢 社 会 を 生 き る

◆インタビュー 人生100年時代の高齢者〈生き方・支え方〉
東洋大学福祉社会デザイン学部教授 高野龍昭

◆特集 令和5年度「シルバーの日」の活動



2024

3

センターだより

町主催「さわやかフェア」に参加 センター事業をPR

公益社団法人阿見町シルバー人材センター（茨城県） 常務理事兼事務局長 小野寺一郎

令和初の「市」誕生を目指す

阿見町は、紫峰「筑波山」を遠く仰ぎ見て、霞ヶ浦南岸に位置し、かつての海軍飛行予科練習生が訓練した、いわゆる「予科練の町」として歴史を歩んできました。都心と県都水戸のほぼ中間にあり、筑波研究学園都市、成田国際空港、茨城空港に近接し、水と緑に恵まれた豊かな自然環境と都市機能の調和を図りながら、着実に発展を遂げている自然災害の少ない住みよいまちです。

大型商業施設「あみプレミアム・アウトレット」や大相撲の二所ノ関部屋（親方…元横綱稀勢の里関）

もあり、子育て世代など若年層が増加し、転入超過数が全国の町村で1位（令和4年）となりました。令和5年11月1日には目標だった人口5万人を達成し、町では令和初の「市」誕生を目指し、準備を加速することになっています。

地域の発展を担うセンター

阿見町SCは、平成3年に設立し平成25年に公益社団法人に移行しました。令和4年度の会員数は、321人（男性226人、女性95人）であり、コロナ前の会員数に及ばない状況が続いています。一方で賛助会員数は企業を中心に30団体となり、サポーター役として

心強い存在です。令和4年度の契約金額は、約2億4036万円（労働者派遣事業を含む）で、公共比率が57%と高いことが特徴です。

これは町の「シルバー世代の就労拡充支援策」が実践されている成果であり、地域社会の発展を担う一員としての重要性を認識し、今後も連携体制を深めていきます。

県SC連合会と協働で 町イベントに参加し普及啓発

「さわやかフェア」は、町内で活躍している健康、福祉、産業、防犯、防災などの関係団体や事業をPRする町の一大イベントです。センターでも平成12年から毎年



阿見町「さわやかフェア2023」には多くの人が来場した



フェアには茨城県SC連合会も応援に駆け付け、シルバー事業を一緒にPRした

参加してきましたが、最近3年間はコロナ禍の影響で中止となり、令和5年10月22日に4年ぶりに復活、町商工まつりと県立医療大学の学園祭と同時開催となりました。当日は天候にも恵まれ、会場では演芸やダンス、芸能ショー、ミニトレイン運行、ビンゴラリー、抽選会のほか、地元野菜や新米販売・模擬店などが行われ、多くの来場者でにぎわいました。

10月はシルバー事業の普及啓発促進月間でもあり、当センターはこのイベントをPR活動のトップに位置付けています。役職員総勢22人が参加し、パネルによるセンター事業紹介やチラシ配布、会員による作品の展示販売等に務めました。

出展した陶芸品の花瓶や皿、マグカップは完売しました。また、センターの独自事業である「草人形」も出展しました。これは、土産のハスの花床を主材料に植物の葉、種、花びら等を自然の色と形をそのまま装飾に利用して制作されるもので、自然の素材からにじみ出る素朴さと愛らしさに趣があります。売上金の一部は町の社会福祉協議会に寄付しました。

PRと高齢者が元気で活躍している姿の証明ができたものと考えています。

コミュニケーションを密に 明日に向かって事業を運営

コロナ禍の3年間は、赤字決算となり事業運営も打撃を受けましたが、持ちこたえることができたのは、町をはじめ企業や商工会等、関係機関の多くの支えがあったからこそと思っています。

安全就業、女性会員拡大をはじめ、インボイス関係、デジタル化やSDGsの推進、フリーランス法への対応など、アフターコロナ時代のセンターとして取り組む課題が山積しています。

このような状況下で頼りになるのが仲間です。県SC連合会の指導の下、当センターは県南ブロック協議会（14センターで構成）に所属しています。定期的開催される事務局長会議や職員研修等を通じて、懸案事例、意見交換、情

報共有や職員間の交流が図れる場があり、日頃から相談しやすいネットワーク環境が整っていることが何よりも強みです。

順風に乗れば「市」誕生は令和8年ですが、当センターの設立35周年記念と重なります。理事長を先頭に役職員、会員とチーム一丸となつてまい進し、明日に向かってセンター事業運営に取り組む決意です。



センター独自事業の「草人形」もフェアに出展し、売上金の一部は町の社会福祉協議会に寄付された